

システム仕様

病理支援システム仕様

1.	病理支援システム
1-1	■全般
1-1-1	クライアントサーバー型で稼動すること。接続可能なクライアント端末は別途費用を支払う事により容易に増やす事ができること。
1-1-2	クライアント端末、サーバー機とも、Microsoft Windows 系 OS が稼動できること。
1-1-3	サーバー機は Microsoft Windows Server 2012 以上、クライアント端末は Microsoft Windows 7 Pro または 10 Pro 版であること。
1-1-4	標本番号は、組織診、細胞診、剖検ごとに管理できること。
1-1-5	ユーザーID とパスワードによるアクセスの管理ができること。
1-1-6	ログインユーザー毎の操作権限の制御ができること。
1-1-7	ログインユーザー毎の操作ログを管理できること。
1-1-8	仕様変更に対して、柔軟に機能拡張できるソフトウェア構造であること。
1-1-9	現行病院情報システムから依頼情報を受信できること。
1-1-10	現行病院情報システムからシエマ図情報が送信される場合は、依頼情報と同時に受信できること。
1-1-11	現行病院情報システムへ結果(診断情報)を送信できること。
1-1-12	現行病院情報システム(電子カルテ)との連携費用は本調達に含めること。
1-1-13	マスターに関しては、ユーザー側で柔軟に変更が可能なシステムであること。
1-1-14	現行病理支援システムから抽出されたデータは完全に移行し、次期システムでも閲覧・編集が可能であること。
1-1-15	提携している遠隔地の施設と VPN にて接続して利用する拡張性を有し、稼働実績を有していること。
1-2	組織診受付
1-2-1	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより組織診、術中迅速組織診、他院組織診標本の依頼情報を取得し、表示できること。
1-2-2	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより受信した依頼情報を取得し、表示できること。
1-2-3	依頼書または検体に貼付されたラベルのバーコードを読み取ることにより、現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより依頼情報を取得し、到着確認ができること。
1-2-4	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより依頼情報一覧(未到着依頼一覧)を表示できること。
1-2-5	受付済み標本一覧を表示できること。
1-2-6	新規標本受付の際に、病理標本番号は自動的に最終番号の次番号が発行されること。
1-2-7	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、受付済みの対象標本情報を表示できること。
1-2-8	受付日の登録ができること。また、受付日は当日の日付が初期表示されること。
1-2-9	迅速、至急情報の登録ができること。また標本一覧においては、迅速、至急情報が分かりやすい色分けで表示されること。
1-2-10	臓器情報の登録、変更、削除、参照ができること。
1-2-11	臓器の表示順の並べ替えができること。
1-2-12	採取法情報の登録、変更、削除、参照ができること。
1-2-13	容器数を入力できること。
1-2-14	臓器ごとに、ブロック数、ラベル情報(ブロック番号等)の入力ができること。また、ブロック数の登録件数には制限が無いこと。
1-2-15	臓器ごとに設定されたラベル情報(染色名、枚数)が自動的に生成されること。
1-2-16	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-2-17	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-2-18	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-2-19	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-2-20	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-2-21	標本の進捗状況が表示されること。また進捗状況の変更ができること。
1-2-22	標本のラベル出力状況が表示されること。
1-2-23	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-2-24	依頼書をスキャナにて取り込むことができること。
1-2-25	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-2-26	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-2-27	受付操作と並行して、問合せ検索機能を利用できること。
1-3	組織診切り出し入力
1-3-1	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、対象標本情報を表示できること。
1-3-2	依頼書画像を参照できること。
1-3-3	切出し者の登録ができること。
1-3-4	切出し臓器の有無が入力できること。
1-3-5	臓器ごとに、ブロック数、ラベル情報(ブロック番号等)の入力ができること。また、ブロック数の登録件数には制限が無いこと。
1-3-6	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-3-7	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-3-8	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-3-9	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-3-10	染色指示書を印刷できること。
1-3-11	標本の進捗状況が表示されること。
1-3-12	標本のラベル出力状況が表示されること。
1-3-13	マクロカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-3-14	マクロカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-3-15	切出し画像の登録枚数には制限が無いこと。
1-3-16	切出し線(直線、自由線、円、長方形、分割線)、任意の文字情報等を、画像上に入力ができること。
1-3-17	平行直線は、本数を指定して一括描画できること。
1-3-18	描画オブジェクトの色、太さを変更できること。
1-3-19	ブロック番号の自動連番付与ができること。
1-3-20	オリジナル画像と編集後の画像は、個別に管理できること。
1-3-21	加工画像の再編集ができること。
1-3-22	画像毎にコメントを入力できること。
1-3-23	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
1-3-24	液晶ペンタブレットを使用して、画像加工が可能なこと。

病理支援システム要求仕様書

1-4	組織診ラベル発行
1-4-1	標本番号のバーコードを読み取ることにより、対象標本ラベル情報を表示できること。
1-4-2	印刷対象ラベルの一覧が即座に表示できること。
1-4-3	一覧表示より、印刷対象ラベルを選択できること。
1-4-4	ラベルに印字する項目は、打合せの上決定できること。
1-4-5	標本番号のバーコードが印刷できること。
1-4-6	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-4-7	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-4-8	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-4-9	染色指示書を印刷できること。
1-4-10	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-4-11	任意ラベルは一枚一枚ではなく複数枚同時に印刷できること。印刷してもデータが消えず、再度同じ内容で印刷できること。
1-5	組織診 診断入力
1-5-1	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、対象標本情報を表示し、診断標本の特定ができること。
1-5-2	受付時に登録された術中迅速、至急の情報が、診断入力画面に表示されること。
1-5-3	標本一覧においては、迅速、至急情報が色分け表示されること。
1-5-4	患者属性情報、受付臓器情報が表示されること。
1-5-5	病理医がログインした際には、診断医として自動的にセットされること。
1-5-6	最終診断登録後に、追加診断の入力ができること。
1-5-7	診断名は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
1-5-8	診断コード、臓器分類、名称による診断名検索ができること。
1-5-9	診断名は、ユーザ毎に登録、検索できること。
1-5-10	所見文は、文字数の制限が無いこと。
1-5-11	追加染色依頼ができること。
1-5-12	染色指示書を印刷できること。
1-5-13	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-5-14	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-5-15	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-5-16	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-5-17	標本の進捗状況が表示されること。
1-5-18	結果照会 WEB 画面を参照できること。
1-5-19	レーザープリンタにて報告書の印刷ができること。
1-5-20	報告書に画像を添付できること。
1-5-21	切出し情報が参照できること。
1-5-22	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-5-23	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-5-24	顕微鏡画像の登録枚数には制限が無いこと。
1-5-25	画像毎にコメントを入力できること。
1-5-26	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
1-5-27	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-5-28	診断済のデータはロックされ、適切な権限がなければ変更できないこと。
1-5-29	入力された情報はエクセル等の他アプリケーションで利用可能な形式で出力することができること。
1-6	細胞診受付
1-6-1	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより細胞診、術中迅速細胞診、他院細胞診標本の依頼情報を取得し、表示できること。
1-6-2	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより受信した依頼情報を取得し、表示できること。
1-6-3	依頼書または検体に貼付されたラベルのバーコードを読み取ることにより、現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより依頼情報を取得し、到着確認ができること。
1-6-4	現行オーダーリングシステム・電子カルテシステムより依頼情報一覧(未到着依頼一覧)を表示できること。
1-6-5	受付済み標本一覧を表示できること。
1-6-6	新規標本受付の際に、細胞診標本番号は自動的に最終番号の次番号が発行されること。
1-6-7	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、受付済みの対象標本情報を表示できること。
1-6-8	受付日の登録ができること。また、受付日は当日の日付が初期表示されること。
1-6-9	迅速、至急情報の登録ができること。また標本一覧においては、迅速、至急情報が色分け表示されること。
1-6-10	材料情報の登録、変更、削除、参照ができること。
1-6-11	材料の登録は1オーダー1材料とすること。
1-6-12	採取法情報の登録、変更、削除、参照ができること。
1-6-13	採取法の登録件数には制限が無いこと。
1-6-14	容器数を入力できること。
1-6-15	材料ごとに設定されたラベル情報(染色名、枚数)が自動的に生成されること。
1-6-16	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-6-17	材料を指定して、染色依頼ができること。
1-6-18	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-6-19	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-6-20	標本の進捗状況が表示されること。
1-6-21	標本のラベル出力状況が表示されること。
1-6-22	受付時、6つの任意項目の登録ができ、検索の際に抽出できること。
1-6-23	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-6-24	依頼書をスキャナにて取り込むことができること。
1-6-25	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-6-26	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-6-27	受付操作と並行して、問合せ検索機能を利用できること。
1-6-28	臨床診断、臨床所見等はあらかじめ登録されている定型文を利用して簡易に入力できること。
1-7	細胞診ラベル発行
1-7-1	標本番号のバーコードを読み取ることにより、対象標本ラベル情報を表示できること。
1-7-2	印刷対象ラベルの検索ができること。

病理支援システム要求仕様書

1-7-3	一覧表示より、印刷対象ラベルを選択できること。
1-7-4	ラベルに印字する項目は、打合せの上決定できること。
1-7-5	標本番号のバーコードが印刷できること。
1-7-6	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-7-7	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-7-8	染色指示書を印刷できること。
1-7-9	材料を指定することにより、ラベル印刷に連動し、必要な枚数のラベルが自動で発行されること。
1-7-10	任意ラベルは一枚一枚ではなく複数枚同時に印刷できること。印刷してもデータが消えず、再度同じ内容で印刷できること。
1-8	細胞診 スクリーニング入力／診断入力
1-8-1	オーダ番号のバーコード(または標本番号のバーコード)を読み取ることにより、対象標本情報を表示し、診断標本の特定ができること。
1-8-2	受付時に登録された術中迅速、至急の情報が、診断入力画面に表示されること。
1-8-3	標本一覧においては、迅速、至急情報が色分け表示されること。
1-8-4	患者属性情報、受付材料情報が表示されること。
1-8-5	2名の細胞検査士が登録できること。
1-8-6	細胞検査士がログインした際には、細胞検査士として自動的にセットされること。
1-8-7	病理医がログインした際には、診断医として自動的にセットされること。
1-8-8	最終診断登録後に、追加診断の入力ができること。
1-8-9	ベセスダ分類による判定入力ができること。
1-8-10	判定は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
1-8-11	所見文は、手入力による任意文章入力、編集ができること。
1-8-12	所見文は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
1-8-13	所見文は、ユーザ毎に登録、検索できること。
1-8-14	出現細胞の登録ができること。
1-8-15	追加染色依頼ができること。
1-8-16	材料を指定して、染色依頼ができること。
1-8-17	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-8-18	染色指示書を印刷できること。
1-8-19	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-8-20	標本の進捗状況が表示されること。
1-8-21	結果照会 WEB 画面を参照できること。
1-8-22	レーザープリンタ報告書の印刷ができること。
1-8-23	報告書に画像を添付できること。
1-8-24	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-8-25	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-8-26	顕微鏡画像の登録枚数には制限が無いこと。
1-8-27	画像毎にコメントを入力できること。
1-8-28	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
1-8-29	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-8-30	診断済のデータはロックされ、適切な権限がなければ変更できないこと。
1-8-31	入力された情報はエクセル等の他アプリケーションで利用可能な形式で出力することができること。
1-9	剖検受付
1-9-1	新規標本受付の際に、剖検標本番号は自動的に最終番号の次番号が発行されること。
1-9-2	必要に応じて、受付済み標本一覧を表示できること。
1-9-3	受付日の登録ができること。また、受付日は当日の日付が初期表示されること。
1-9-4	執刀医、介助者の入力ができること。
1-9-5	臓器数を入力できること。
1-9-6	容器数を入力できること。
1-9-7	ブロック数の入力ができること。
1-9-8	リンパ個数の入力ができること。
1-9-9	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-9-10	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-9-11	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-9-12	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-9-13	染色指示書を印刷できること。
1-9-14	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-9-15	受付時6つの任意項目の登録ができ、検索の際に抽出できること。
1-9-16	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-9-17	臨床診断情報の入力ができること。
1-9-18	依頼書をスキャナにて取り込むことができること。
1-9-19	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-9-20	スキャナにて取り込んだ依頼書画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-9-21	受付操作と並行して、問合せ検索機能を利用できること。
1-9-22	臨床診断、臨床所見等はあらかじめ登録されている定型文を利用して簡易に入力できること。
1-10	剖検切り出し
1-10-1	標本番号のバーコードを読み取ることにより、対象標本情報を表示できること。
1-10-2	依頼書画像を参照できること。
1-10-3	切出し者、介助者の登録ができること。
1-10-4	切出し臓器の有無が入力できること。
1-10-5	ブロック数、ラベル情報(ブロック番号等)の入力ができること。また、ブロック数の登録件数には制限が無いこと。
1-10-6	染色名の入力および追加染色依頼ができること。
1-10-7	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-10-8	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-10-9	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-10-10	染色指示書を印刷できること。

病理支援システム要求仕様書

1-10-11	マクロカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-10-12	マクロカメラにて撮影した切出し画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-10-13	切出し画像の登録枚数には制限が無いこと。
1-10-14	切出し線(直線、自由線、円、長方形、分割線)、任意の文字情報等を、画像上に入力ができること。
1-10-15	平行直線は、本数を指定して一括描画できること。
1-10-16	描画オブジェクトの色、太さを変更できること。
1-10-17	ブロック番号の自動連番付与ができること。
1-10-18	オリジナル画像と編集後の画像は、個別に管理できること。
1-10-19	加工画像の再編集ができること。
1-10-20	画像毎にコメントを入力できること。
1-10-21	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
1-10-22	液晶ペンタブレットを使用して、画像加工が可能なこと。
1-10-23	同一患者の過去標本(既往歴)一覧が表示されること。
1-11	剖検ラベル発行
1-11-1	標本番号のバーコードを読み取ることにより、対象標本ラベル情報を表示できること。
1-11-2	印刷対象ラベルの検索ができること。
1-11-3	ラベルに印字する項目は、打合せの上決定できること。
1-11-4	標本番号のバーコードが印刷できること。
1-11-5	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-11-6	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-11-7	染色指示書を印刷できること。
1-11-8	上記によらない任意のラベルも随時発行できること。
1-12	剖検 診断入力
1-12-1	標本番号のバーコードを読み取ることにより、対象標本情報を表示し、診断標本の特定ができること。
1-12-2	受付時に登録された急急の情報が、診断入力画面に表示されること。
1-12-3	患者属性情報、受付臓器情報が表示されること。
1-12-4	病理医がログインした際には、診断医として自動的にセットされること。
1-12-5	診断医は、複数名登録できること。
1-12-6	最終診断登録後に、追加診断の入力ができること。
1-12-7	追加診断にて登録された際には、画面上に状況が明確に表示されること。
1-12-8	診断名は、手入力による任意文章入力、編集ができること。
1-12-9	診断名は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
1-12-10	診断コード、臓器分類、名称による診断名検索ができること。
1-12-11	診断名は、ユーザ毎に登録、検索できること。
1-12-12	所見文は、手入力による任意文章入力、編集ができること。
1-12-13	所見文は、あらかじめ登録されたマスタから呼び出せること。
1-12-14	所見文は、ユーザ毎に登録、検索できること。
1-12-15	追加染色依頼ができること。
1-12-16	染色指示書を印刷できること。
1-12-17	ブロックを指定して、染色依頼ができること。
1-12-18	複数ブロックを指定して、一括染色依頼ができること。
1-12-19	染色セットを指定して、染色依頼ができること。
1-12-20	同一患者の既往歴一覧が表示されること。
1-12-21	標本の進捗状況が表示されること。
1-12-22	結果照会 WEB 画面を参照できること。
1-12-23	レーザープリンタにて報告書の印刷ができること。
1-12-24	報告書に画像を添付できること。
1-12-25	切出し情報が参照できること。
1-12-26	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を自動的に関連付けて登録できること。
1-12-27	顕微鏡用デジタルカメラにて撮影した画像と標本番号を手動で関連付けて登録できること。
1-12-28	顕微鏡画像の登録枚数には制限が無いこと。
1-12-29	画像毎にコメントを入力できること。
1-12-30	画像毎に結果照会への公開、非公開を選択できること。
1-12-31	標本に割り当てられた画像(依頼書画像、マクロ画像、切出し加工画像、ミクロ画像等)を参照できること。
1-12-32	診断済のデータはロックされ、適切な権限がなければ変更できないこと。
1-12-33	入力された情報はエクセル等の他アプリケーションで利用可能な形式で出力することができること。
1-13	統計
1-13-1	公益社団法人日本臨床細胞学会に提出する「細胞診断に関する統計量」の統計資料のデータが出力できること。
1-13-2	「細胞診断に関する統計量」の詳細は、検体の種類別(婦人科、呼吸器、消化器、泌尿器、乳腺、甲状腺、体腔液、リンパ節、その他)ごとの判定別(陰性・疑陽性・陽性、材料不適)の件数を出力できること。
1-13-3	現行院内統計用資料と同等の統計データを出力できること。集計期間は任意に設定ができること。
1-14	画像管理
1-14-1	受付画面、診断画面などから、画像データの登録が可能であること。
1-14-2	特定のフォルダの画像を一括で登録可能な機能を持つこと。ファイル名等による自動登録が出来ること。
1-14-3	登録された画像は自動的にサーバーにファイリングされ、簡易に参照できること。
1-15	Web 機能
1-15-1	臨床に対して、Web ブラウザ経由でリアルタイムで病理検査の進捗及び診断結果の参照が行えること。
1-15-2	報告される内容には画像も含むことが可能であること。
2.	病理システムハードウェア
2-1	病理検査システムハードウェア一式は、サーバ 1 式、クライアント PC3 式、ラベルプリンタ 1 式、レーザープリンタ1式、イメージスキャナ 1 式、バーコードリーダー3 式、顕微鏡用デジタルカメラから構成され、以下の要件を満たすこと。

病理支援システム要求仕様書

2-2	基本条件
2-2-1	クライアントコンピュータの OS エディションは Professional とすること。
2-2-2	導入するサーバおよびクライアントには、病院で一括管理しているウイルス対策ソフトを導入しても動作すること。
	サーバ
2-3	病理システムサーバ 1 式は、以下の要件を満たすこと。
2-3-1	CPU はインテル Xeon プロセッサ E5/コア数 6 以上であること。
2-3-2	メモリは 8GB 以上であること。
2-3-3	内蔵ハードディスクは容量 300GB HDD を 6 本以上搭載し、RAID5 構成であること。ホットプラグ可能であり、スペアディスクを有すること。
2-3-4	DVD-ROM 相当以上の光学ドライブを装備していること。
2-3-5	サーバ OS は Windows Server 2012R2 相当以上であり、必要な端末数と同数とすること。
2-3-7	バックアップ用 NAS は空き容量 1.0TB 以上であること。
2-3-8	自動シャットダウン機能を備えた無停電電源装置を有すること。
2-3-9	その他稼働に必要なモニタ等を装備していること。
	クライアント
2-4	病理検査システムクライアント PC3 式は、以下の要件を満たすこと。
2-4-1	筐体は省スペース型デスクトップ PC を 2 式、ノート型 PC を 1 式を調達に含めること。
2-4-2	CPU はインテル Core i5 プロセッサ以上であること。
2-4-3	メモリは 8GB 以上であること。
2-4-4	ハードディスクは有効総記憶容量は 250Gbytes 以上を有すること。
2-4-5	DVD-ROM 相当以上の光学ドライブを装備していること。
2-4-6	オフィス統合ソフトは、Microsoft Office 2016 Personal を調達し、導入作業を行うこと。
2-4-7	USB3.0 インターフェイスを有していること。またミクロカメラを接続する PC に関しては接続可能な空きポートを有していること。
2-4-8	デスクトップ PC ディスプレイは、23.6 インチ液晶ディスプレイであること。同時発色数 1,677 万色以上で解像度 1920x1080 ドット以上であること。
2-4-9	診断用 PC をディスプレイは、19 インチ液晶ディスプレイのデュアル構成であること。同時発色数 1,677 万色以上で解像度 1280x1024 ドット以上
2-4-10	JIS 配列準拠の日本語キーボードを有すること。光学式マウスを有すること。
2-4-11	1000Base-T 機能に対応するネットワークインターフェイスを 1 ポート以上有すること。
	バーコードラベルプリンター
2-5	ラベルプリンタ 1 式は、以下の要件を満たすこと。
2-5-1	ラベルプリンターは、正晃デック社製 SLP-01 ないし SATO バーコードラベルプリンタ R412VEX (LAN 仕様) 相当であること。
2-5-2	印刷ヘッド密度は 12 ドット/mm (約 300dpi) 以上であること。
2-5-3	専用のラベルシールへの印字に対応できること。
2-5-4	インターフェイスは USB およびネットワーク接続ができること。
2-5-5	スライドガラスに貼付け可能な指定のラベルシール印字を部門システムと連携して可能であること。
	プリンター
2-6	レーザープリンタ 1 式は、以下の要件を満たすこと。
2-6-1	印刷方式はカラーレーザー方式であること。
2-6-2	プリント解像度は 600 × 600dpi 以上であること。
2-6-3	用紙サイズは A4 サイズの印刷に対応できること。
2-6-4	インターフェイスは USB およびネットワーク接続ができること。
	スキャナー
2-7	イメージスキャナ 1 式は、以下の要件を満たすこと。
2-7-1	型式は卓上型カラーイメージスキャナであること。
2-7-2	用紙サイズは最大 A4 まで読み取れること。カラー読み取り機能を有すること。
2-7-3	PC とは USB 接続であること。
2-7-4	オートドキュメントフィーダを備えていること。
2-7-5	依頼書に印字されるバーコードを認識を行い読み取れること。
2-7-6	部門システムからの制御が可能であること。
	バーコードリーダー
2-8	バーコードリーダー 3 式は、以下の要件を満たすこと。
2-8-1	光源は赤色 LED が 2 個以上を有すること。
2-8-2	読み取り方式は WVGA (36 万画素) CMOS エリアセンサであること。
2-8-3	視野角は水平約 40.6°、垂直約 26.4° 以上であること。
2-8-4	読取可能なバーコード体系については、JAN- (8, 13)、CODE-39、CODE-128、EAN-128、NW-7、GS1-DataBar (RSS: RSS-14、RSS-Limited、RSS Expanded) を扱えること。
2-8-5	読取可能な 2 次元コード体系については、PDF417、Micro PDF417、QR code、Micro QR code、Data Matrix、Maxi Code を扱えること。
2-8-6	外部インターフェイスとして、USB に対応すること。
2-8-7	本体への電源供給は接続先の PC より行い、追加電源を必要としないこと。
2-8-8	スイッチ操作により発光すること。
2-8-9	フリーハンドスタンドを装備していること。
	顕微鏡用デジタルカメラ
2-9	顕微鏡用デジタルカメラ 1 式は、以下の要件を満たすこと。
2-9-1	オリンパス DP22-CU 及び取り込みソフトウェア (イメージングソフトウェア cellSens CS-ST-SET) と同等以上の性能を有すること。
2-9-2	顕微鏡との接続は C マウントアダプター 0.5X が付属し接続が出来ること。
2-9-3	画像ファイルフォーマットは JPEG 方式で記録できること。
2-9-4	PC 接続は USB ケーブルにより PC 端末と接続し、撮影時に部門システムと連携したオンライン画像データ転送機能を備えていること。
2-9-5	接続した PC 上でカメラを制御でき、ライブ画像が参照できること。